

【大学入試レベルの問題】（難易度：難）

次の文章は「ローマ人への20の質問」（塩野七生 文春新書）の抜粋である（一部、読みやすく改めてある）。よく読んで、後の問に答えなさい。

「ギリシアには多くの都市国家が併立していたので、最も強力で最も有名なアテネを例にとることにしますが、アテネ人の考えた「市民」とは、アテネの領内で両親ともがアテネ人の間に生まれた人間だけを意味していた。アテネの黄金時代を築いた大政治家(a) ペリクレスも、二度目の結婚の相手が(b) ミレトス生まれの女であったので、この2人の間に生まれた息子はアテネ市民ではないということになってしまい、それまでの彼の功績に報いるという理由で特例扱いにしてもらった結果、ようやく息子は市民権を得ることができたくらいなのです。

両親ともがアテネ生まれの(c) ソクラテスはアテネ市民権の所有者でしたが、マケドニア生まれの(d) アリストテレスは、①と呼ばれた学校を創設したりしてアテネ文化の向上に寄与しながら、市民権さえも与えられなかった。市民であるソクラテスは、悪法であろうと法であると言って死刑の毒杯をあおりますが、アリストテレスの方は、さっさと獄から逃げてしまう。アテネ市民ではない彼には、アテネの法に殉ずる義務はなかったからです。

…アテネの外港ピレウスの船着場で働く肉体労働者も1票をもつ市民なのに、西洋思想史の巨峰アリストテレスでもアテネでは異邦人であり続けた。いずれも(e) ギリシア語を話すギリシア民族に属しながら、(f) スパルタや(g) コリント生まれにはアテネ市民権は閉ざされており、アテネ生まれの人は、スパルタやコリント市民にはなれなかったのがギリシアでした。このギリシアから、普遍帝国を夢見たアレクサンドロス大王が出現するのは、民主政を採用する都市国家の限界を悟ったからではなかったか、とさえ考えてしまいます。

一方、ローマ人の方は、市民ないし市民権を、アテネ人とは全く反対に考えていたのです。アテネ人の考える市民が「血」であれば、ローマ人の考える市民とは「志をともにする者」としてよいかもしれません。『英雄伝』の著者でギリシア人だった②は、ローマ興隆の要因を、敗者でさえも自分たちと同化する彼らの生き方にあつた、と断言しています。ローマ人は建国初期の王政時代からすでに、征服した部族は皆殺しにせず、有力者には元老院の議席を提供したりして同化する傾向が強かった。ユリウス=カエサルをはじめとするローマの支配階級の多くは、その当時の敗者の子孫です。敗者でさえも同化が可能であったのは、国家ローマを守り立てるという「志」を共有しさえすれば、敗者でもたちまち同志に変わりえたからでした。そして「同化」とは、市民権を共有することであつたのです。

…皇帝クラウディウスは、ガリア人の有力者たちに議席を与えることに反対する元老院議員たちを前に、次のような演説をしたのです。

「スパルタ人もアテネ人も、戦場ではあれほども強かったのに短期の繁栄しか享受できなかった。その主因は、かつての敵を自国の市民と同化させようとせず、いつまでも異邦人として閉め出すやり方を続けたからである。しかし、われらがローマの建国者ロムルスは、賢明にも、ギリシア人とは反

対のやり方を選択した。年来の敵も、敗れた後は市民に加えたのだ。元老院議員諸君、われわれが古来からの伝統と思いこんでいる事柄とて、それが成された当初は全てが新しかったのだ。(h) 国家の要職も、長く貴族が独占していたのが、ローマ在住の平民に開放され、次いでローマの外に住むラティナーナ(ラテン)人に、さらにイタリア半島に住む人々と、門戸開放の波は広がっていったのである。 議員諸君、今われわれが態度表明を迫られているガリア人への門戸開放も、いずれはローマの伝統の一つになるのだ。」

問1 文中の空欄①・②にあてはまる、適切な語句を書きなさい。

問2 文中の下線部(a)の人物が14年間、アテネの指導権を握っていたのは、何という地位にあつたものだったか。

ア ストラテゴス イ アルコン ウ ディクタトル エ サトラップ

問3 文中の下線部(b)の都市を中心として、タレスなどの自然哲学者たちが活躍したアナトリア西部の地域は何地方と呼ばれるか。

問4 文中の下線部(c)・(d)の2人の人物に関して述べた次の文AとBの正誤の組合せとして正しいものを、下のア～エのうちから一つ選びなさい。

A ソクラテスはプラトンの師であり、普遍的・客観的真理の存在を強調したソフィストを批判して、「人間が万物の尺度」という相対主義を主張した。

B アリストテレスはプラトンの弟子であり、イデア論に基づいて観念哲学を説き、『国家論』を著して哲人政治を理想とした。

ア A－正 B－正 イ A－正 B－誤
ウ A－誤 B－正 エ A－誤 B－誤

問5 下線部(e)にみられる共通意識に関連した語句に該当しないものを選びなさい。

ア オリンピア競技 イ デルフォイの神託 ウ ギルガメシュ叙事詩 エ ヘラス・ヘレネス

問6 下線部(f)のポリスに関連して述べた文章として、正しいものを選びなさい。

ア 集住によって形成された典型的なポリスである。
イ 18歳以上の成年男子市民全員で構成される民会による直接民主政が行われた。
ウ リュクルゴスと呼ばれる伝説的建国者による軍国主義・鎖国主義が行われた。
エ 重装歩兵によるファランクス戦法はとらなかった。

問7 下線部(g)のポリスにおいて、前337年、スパルタを除く、全ギリシアの都市同盟を結成した君主は誰か。

問8 下線部(h)について。前367年の法から、後212年の勅法にいたるまでの「国家の要職の門戸開放」の具体的な経過について、次の語句を全て使用して、150字以内で述べなさい。(年号は不要)

ホルテンシウス法 同盟市戦争 カラカラ帝 コンスル

【正解例】

問 1				問 2	問 3	問 4	問 5
①	リュケイオン	②	プルタルコス	ア	イオニア地方	エ	ウ
問 6	問 7						
ウ	フィリッポス 2 世						
問 8							
<p>リキニウス・セクスティウス法でコンスルの 1 人を平民から選出、ホルテンシウス法で平民会の決議がそのまま国法となることで、平民と貴族は政治的に対等となった。のち、同盟市戦争によりイタリア半島全域に市民権が拡大、カラカラ帝のアントニヌス勅法により帝国領内の全自由民に市民権が与えられ、門戸開放は完成した。(149 字)</p>							

【配点】

問 2 ・ 問 4 ～ 5 は各 1 点。 問 1 ・ 問 3 ・ 問 7 は各 2 点 問 8 は 8 点

合計 2 0 点